

第3回「南山の授業について話そう」の報告

2011.01.18

2010年12月8日(水)14時半から、名古屋キャンパスL棟9階大会議室・瀬戸キャンパスC204教室で、第3回「南山の授業について話そう」が行われました。

これまでは、先生方を中心に企画・運営されていましたが、今回は学生交流センター・セントルムTA、つまり私たち学生が中心に企画・運営を行いました。



会に向けて、会議を進めるセントルムTA、発言者

この会の目的は、学生が大学の授業に関して、普段考えていることを言葉にし、先生方と共有していく中で、南山大学の授業をより良いものへと変えていくことです。

今回は、3つのテーマ・9トピックに分けて、学生が意見を発表し、各テーマについてディスカッションを行うという形式をとりました。

[~3つのテーマの紹介~]



意見を発表する学生

1.外国語の授業について

- 外国語のクラス分けは必要？
- 語学の授業は、楽しさだけではなく、苦勞も必要なのでは？
- 学生のニーズにあった外国語の授業とは？

2.授業で出欠をとることについて

- 出欠を取る必要がないのでは？
- 就職活動と両立したいけれど、バランスをとるのは難しい
- 出欠の良い取り方は、どんな方法



発言をされる先生

3.授業のあり方とモチベーション

- 授業中の私語への対応として、全席座席指定にするのはどう？
- 私語は学生同士が注意すべき？
- 知識提示のみの授業ではなく、話し合いなどをする授業になると良い

- 試験では、暗記だけでなく、応用力を試す問題も必要では？

などなど、たくさんの意見や提案が出ました。

発表に対して、学生・先生方共に、うなずきながら熱心に耳を傾けていた姿が印象に残っています。

ディスカッションの場においては、目的通り、学生と先生が活発に、意見を交換し、普段なかなか聞くことの出来ない、先生方の貴重なお話も伺えました。

多くの人と意見を交え、思いを共有することにより、自分 1 人では気付けなかった事柄などに、各自気づけたのではないかと思います。

十人十色という言葉のように、同じ授業を受けていても、人によって捉え方は様々です。全員が一致して、この授業が素晴らしいということは、難しいことではありますが、そこを目指していくことは重要だと言えます。

大学という場は、高校までのように先生が構成する授業を受身で聞く場ではありません。私たちは、「自ら進んで学業を修める者」である「学生」という自覚を持ち、先生方の良きアドバイスを得ながら、自分自身で学ぶ姿勢も忘れないようにすべきだと思います。今回の取り組みが、その橋渡しになっていたとしたら、幸いです。

セントルムでは、現在この会の報告集・実施報告書のダイジェスト版を作成中です。

実施報告書は、学生のみなさんにも配布予定です。また、この HP にも掲載予定ですので、ぜひ目を通して下さいね。

今後も、「南山の授業について話そう」が続き、南山の授業がみなさん一人一人にとって、より良いものとなるように願っています。

これを読んで、「私もこんな意見があります」と思っ下さった方は、ぜひ次回の「南山の授業について話そう」に参加して下さいね。

最後に、参加して下さった学生のみなさん、先生方、ありがとうございました。



セントラム TA:国際地域文化研究科 1年 地頭綾香